

洪水の被害

下の表は藩政時代の、手取川の洪水の記録を、摘出したものである。毎年の如く、甚大なる被害をもたらし、更に悪いことには何回も洪水を起こしている有様がお分かり戴けると思う。

先に書いたように、前田藩政時代の初めに、上流の方で「川落とし」と呼ぶ流路の変更を実施してから、今までの川筋が大幅に変更され、現在の流路になって赤井・吉原は、大洪水をまともに受けるようになった。

赤井・吉原の被害は即福島の被害であり、更に下流の福岡・中の江や大島・小島の被害でもあった。

手取川の洪水は、物凄い量の石と泥土を置いて行った洪水であった。

今でも語り草になっている事であるが、『洪水の後始末』は、それはそれは苦しい労働であった、と言う。

自分の田んぼがどの辺であったかを、話し合いで決まると、後始末の工事が始まる。

現在のように重機がない時代であるから、人力で自分のものは自分で、の工事で、しかも冬の最中に洪水の残して行った大きな石や泥土を、田植えまでの間に完了するには、血の滲む、言い知れぬ苦勞の連続であったと聞いた。

この苦勞は昭和九年の大洪水を境に、堤防を現状にし解決した。

慶長11年 (1606年)	左右岸	2回	宝永6年(1709)	赤井	
寛永3年 (1623年)	左右岸	2回	享保14年(1729)	赤井	
明暦2年 (1655)	同上		寛保2年(1742)	洪水2回	
万治1年 (1658)	吉原は特に被害		延享2年(1645)	洪水2回	
万治2年 (1659)	同上		寛延年間	洪水3回	
万治3年 (1660)	同上		宝暦年間	大洪水1回	洪水7回
寛文1年 (1661)	吉原・赤井		明和年間	大洪水2回	
寛文2年 (1662)	吉原・赤井		安永年間	大洪水1回	洪水2回
寛文12年(1672)	この間毎年洪水		天明年間	洪水3回	大洪水2回
延宝1年(1673)	この間毎年洪水		寛政年間	洪水4回	
延宝8年(1680)			文化年間	洪水9回	
天和1年(1681)	吉原・赤井		文政年間	大洪水3回	洪水2回
貞享3年(1685)	左右岸・中の庄		天保年間	洪水4回	
元禄9年(1696)	赤井		弘化年間	洪水4回	
元禄10年(1697)	赤井		嘉永年間	洪水4回	
元禄11・12年	赤井・中の庄		安政年間	洪水4回	
元禄16年(1703)	赤井				